

日本養生学会第17回大会

ようせいフォーラム2016

テーマ コア
いのち・からだの幹
—細胞, 体幹, 脳—

大会長: 跡見 順子 (東京農工大学)

開催日: 2016年3月19日(土) - 20日(日)

会場: 東京農工大学 小金井キャンパス

参加費: 3,000円(正会員)

1,000円(学生, 非会員)

ホームページ: 日本養生学会

<http://yousei.org/>

問い合わせ先・大会事務局:

〒184-8588

東京都小金井市中町2-24-16

東京農工大学 工学府

跡見清水研究室(藤田恵理)

Tel: 042-388-7539

Mail: efujita@cc.tuat.ac.jp

日本養生学会第17回大会への応援メッセージ

ようせい二〇一六年フォーラム大会を開催できることを誠に嬉しく思っております。

本大会は、実際の参加者に対して「からだの原点」から問い直す為に、普及活動を行う事を目的としています。私は肺気腫で、酸素を吸入しております。又、同時に「がん」を二つかかえており、医師も看護師も何かをやる度に、体内の酸素量を計り、よいか悪いか判断して、そのみに終わっておりますが、患者である私には、身体にどういふ悪さをしているかわかりません。

自分のからだを科学的に見つめ、自分の体の細胞への働きかけこそが、自分を生かす道である事に気づくという事です。私は現在、在宅医療を受けており、外出も不可能ですので、残念乍ら、出席は出来ませんが大会のご盛会をお祈りしております。

日本養生学会会長

清水 司

<清水 司 先生 ご略歴> 1948年早稲田大学理工学部電気通信学科を卒業、1953年同大学院を修了。工学博士。早稲田大学第11代総長。早稲田大学名誉教授。東京家政大学学長、東京家政大学短期大学部長を経て、学校法人渡辺学園理事長。中央教育審議会会長、文化庁国語審議会会長、東京都教育委員会委員長、財団法人交通遺児育英会会長なども歴任。1997年に文化功労者に選ばれ、1999年11月に勲一等瑞宝章を授与された。

日本養生学会の活動にエールを送ります。

私はポチポチ八十歳ですから、あとはまさに養生のみです。足が弱ってきたので、竹筒踏みをやって、病院には行きません。皆様方が老人最後の頃の身体について、いろいろお考え下さることを期待します。

日本養生学会顧問

養老 孟司

<養老 孟司 先生 ご略歴> 1937年生まれ、東京大学医学部を卒業、1967年医学博士号を取得。東京大学助手・助教授を経て、1981年解剖学第二講座教授。1995年東京大学を退官後は北里大学教授、大正大学客員教授を歴任。1989年に『からだの見方』(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞。2003年『バカの壁』(新潮社)は毎日出版文化賞特別賞を受賞。著書多数。

日本養生学会第17回大会に寄せて

日本養生学会第17回大会の開催おめでとうございます。養生とは生命を正しく養うこと。生命を正しく養うとは内にダイナミズム(生命の躍動)を抱き、外にダンディズム(粋な生き方)を発揮しながら終りなき自己実現の道を進むことにほかなりません。

凋落いちじるしい地球の場の自然治癒力を回復するためには日日養生を果たしていく人を一人でも多く世に輩出することの思いから全国に養生塾を展開して16年。まだまだ道半ばというところです。そういう状況のなかで、理想に向かって堅実に歩を進める貴学会の存在はきわめて心強く、つねに敬愛の念を禁じ得ません。

今回も大いに実りのある会になることを祈念してエールを送りたいと思います。

帯津三敬病院名誉院長

「場」の養生塾塾頭

日本養生学会顧問

帯津 良一

<帯津良一 先生 ご略歴> 東京大学医学部卒業。医学博士。東京大学医学部第三外科、都立駒込病院外科医長などを経て、1982年、埼玉県川越市に帯津三敬病院を設立。西洋医学に中国医学や代替療法を取り入れ、医療の東西融合という新機軸を基に、がん患者などの治療に当たる。人間をまるごと捉えるホリスティック医学の第一人者として、日本ホリスティック医学協会会長、日本ホメオパシー医学会理事長なども務める。

小生は一開業医にすぎず、八十八才になりますが毎日お蔭様で診療をしています。小生これまで約六十三冊(今二冊出版社に行ってます)出版をしていますが、その一つのテーマが「道教と中国伝統医学」です。ご存知のように道教は儒・仏教と共に中国三大宗教の一つでしかも中国古来、中国由来のものです。その目的とする所の不老長寿、現世利益ですから当然、中国医学とクローズな関係にあるわけです。養生もその中の大きな柱です。

中国道教の教典集を「道蔵」と申しますがその中には全くの医書も入っています。気功、導引も道教にふくまれます。ところで、この「道蔵」の中の『西昇経』というのに「真道養神、偽道養形」というのがあります。いくら体を鍛えても心一精神が伴わないと、全く無益だということです。スポーツでいくらレコードをのぼしても精神を磨かないとただ体の丈夫なだけになります。スポーツマンシップつまりフェアである事です。野球の清原選手のような人間がでてくるわけです。

身心共に錬るのを道教では「性命双修」といいます。心と体の両者を修養するというので、道教一派の全真教では強いいう処です。一方正一教(台湾など)は、巫術的、呪術的な一面がするわけです。今書いている本の一つが『道教医学とその周辺』というタイトルです。できたらごらん下さい。台湾、中国、韓国の東アジアでは小生の以前(平成元年)にかいた「道教と不老長寿の医学」がそれぞれ訳されてよまれています。

以上つまらぬ事を申しましたが、これにて失礼します。横澤、跡見先生にもよろしくお伝え下さい。

日本養生学会顧問

吉元 昭治

<吉元昭治 先生 ご略歴> 1928年東京神田生まれ。1950年順天堂医学専門学校(現順天堂大学医学部)卒業。国立東京第一病院を経て1951年より同大学医学部産婦人科に勤務。1955年医学博士、翌年から順天堂大学講師。1963年、東京都小平市に吉元病院(産婦人科、外科)を開業。1977年より吉元医院として現在に至る。米国カリフォルニア州鍼灸師、ドイツ鍼灸アカデミー名誉会員、順天堂大学産婦人科非常勤講師。『老荘とその周辺』(たにぐち書店)、『不老長寿への旅』(集英社)、など、著書多数。